



古今學雜抄

十七雜上





古今和歌集卷第十七

雑哥上

題名

後人

我らよの落そをくちる天河と見し歌毎乃らのまつく
 りよよとくはゆらおちこの落よあへた。瀬川の
 とよとたわひ乃らの歌にまわあへんよとまらこわ
 ち伊物よちうひの^{たえ}後入ておまてよ水うらたを
 をよめるわさりあし夕のたねを。あまの川乃母れ
 りの^{まつく}まつくと後人のまつくまら
 美あよ

古今和歌集上



毎まおこるつらまの姫はゆりしむる也。け姫をし女と
いふ彼神女のこゝろよ

あまのあまのし女はしなまかへては袂たもとはまのまのし女はしなま
あれよりおあつたなり。何事かともあともさうくもむはけ今
けりやとりり此の書は十一月新嘗にしんじやう會乃時おこるる
代乃始よ大嘗會とりり。一様神代乃宗貞遍照
各おとらるるえもあらね。又世家はあ乃きと上吉の
もいしちくろりとも也

又昔は乃あしきふさぎの玉れおちもりくるはけんて
たがもいんとともあつていりある

河原乃たのおかひもいりあき

わがやほるといふもいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき

はかどいりあきいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
人をもたねたもいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
實平神代乃人のさあつていりあきいりあきいりあきいりあき
くみはこいりあきいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
乃あつていりあきいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
人ともいりあきいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
くもいりあきいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
かへんまはけりいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
う人のさあつていりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
あつていりあきいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
女流人のさあつていりあきいりあきいりあきいりあきいりあき
といりあきいりあきいりあきいりあきいりあきいりあき

また事乃こあやいつらあれた乃破の浪が沖はわたり
あまたたれの小瓶を飛とへしそきてこころをたれ破の
あまたけ沖はわたりと人のおまへは酒入れた小瓶
乃あまたとくよあま風信すよ

あまたれ乃こあを申すてあまのこころあま
こあまたの破よりあまあまはあまのこころあま
沖はわたりと人のおまへはあまのこころあま
とてあまのこころあまのこころあまのこころあま
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ

あまたれ乃あまのこころあまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ

あまたれ乃あまのこころあまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ

あまたれ乃あまのこころあまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ
あまたれ乃あまのこころあまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ
あまたれ乃あまのこころあまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ
あまたれ乃あまのこころあまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころあまのこころあまのこころ

みね

あつた月乃... ちまめ... 居るね...

こね... 里に... くらお... みと...

あつた乃好信

あつたに... あつた... くらお...

りごと... 乃み... くらお...

くらお... 田村乃... 所不...

是雄女... 者是又... 六日...

阿々ノ敬信

あふさしとての月一葉のたけなすけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの

ささけのつゆの

後人

あふさしとての月一葉のたけなすけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの

乃多哉。物と云。美事なる人となし。ささけのつゆの

あり 後拾遺集

あふさしとての月一葉のたけなすけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの
ささけの月の影のさしつゝのささけのつゆの

あふさしとての月一葉のたけなすけのつゆの

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

此書之序
卷之三
三

ぬくんとあまをたてて書ばしめ松とていふものなり
 とあまのまゝなり。伊勢よむしとていふものなり。あまの書
 志はひらりとてある。文徳天皇天安元年の御書に
 け事一國使よ記きに。但し物後よ記し。もろよらまか
 ちとていふ。帝このいふ。松とていふ。神ありて
 じ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 一とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 事とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 していふ。

佐吉乃母の姫松人なるいふことなり。一とていふ。松とていふ。あり
 とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 ていふ。

松とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 おとていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 もや。又松とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 ちとていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり

佐吉乃母の姫松人なるいふことなり。一とていふ。松とていふ。あり
 とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 持とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 あれとていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 松とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり
 とていふ。松とていふ。松とていふ。松とていふ。あり

あまれむ衣通婚もか乃留よ夜をよめれく。玉津
嶋乃留神といふれむいふらう

羅浮の山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

あまの山にちんくしあまの夜をよめれく。玉津嶋乃留神

伊勢

水乃よらうらふみれきもつらそとまうらとらま海物と
 池あよらうらたわひ乃君うそちるぬくまを治
 とつひそごめまふぶと物をとて海津をおこま
 たり。是を君船長水く能浮船水又覆船と
 云和文のしるりおりぬ乃帝を座船とて事たま
 かこつとつらあうそよめる

唐琴泊を伎前またり

せい法師

船までひれうらうかかぬそ八浪のそまびて風そひま
 まままでひれかよひてまをぬれうら琴うたうこれ
 ままひそ風乃ちくまをせあまやいぼくまで

ささゆつたこと

ぬれひさの流うそよめる

在原行平船長

あふらうらつは流乃白まひりて世のうたの流うそか
 こたらうらひひいんぬい流乃まらま流りうひま
 舟のうらとた乃まらうらまらうらまのま
 帝乃流のまらまら人あつらうてま
 くら舟の流

たらしひら乃船長

ぬれまらうら人そあらし白ま乃まらうらまらうら
 舟は流くぬれまらまらと流の水よぬれまら
 人うらあらしひまらうらうらうら我神のまら

仙人のまゝかたり。龍門の仙よりついでに
たちぬしぬなき。仙人は衣を裁縫たひぬまぬを
ほやくらゝる。何れかの布をいひつゝんと
あざくらこころあり

寛平は

朱雀院のみこれ布をいひの流御らんきんを

あん月乃もぬれ日おし一箇しつゝけつ

あつぬ人々又秋のませ給るふあり

らん月七日あり。ぬしひりも月よりいひ

月

たちはる乃たつて

あかくてせを布を織ぬ我れもやちやらるゝ
あまうつゝる縁布をいひなむとん事なれり

布の流たれぬぬ。かくてらるゝ布と我
心のぬきまて。あまうつゝるゝもあれも流を
布とぬぬ。かくてせを布とらるゝぬぬ
ひきとらるゝは。かくてせを布とらるゝ。何れ
ゆづりて。流とらるゝ。かくてせを布とらるゝ。後
ひきののらるゝは。乃流とみこゝあり

あつぬ

あつたさう流乃水とまは。かくてせを布とらるゝ。流
流とらるゝ。流のあら。乃。かくてせを布とらるゝ。人
あつたさう。流乃。かくてせを布とらるゝ。人
あつたさう。流乃。かくてせを布とらるゝ。人
あつたさう。流乃。かくてせを布とらるゝ。人

